

悔しさも強さも学んだ

布できるようにしたい——。

東京都世田谷区の嶋本夏海さん(18)は、こんな志望理由を提出して、昨秋、慶応大環境情報学部に入試で合格した。PRしたのは、プログラミングとアプリ開発の経験だ。

スマートフォンアプリを使って、会場の観客全員がコンサートやイベントに参加できる。そんな観客参加型アプリを開発し、世界で自由に改変、再配

「私、あまり自己主張しない子で、何かをしたいと思ったところが、なかったんです。プログラミングに出会わなければつまらない中高生時代だったし、慶応大合格もたぶん無理だった」

始めたのは、中3。通っていた品川女子学院中等部で、夏休みのプログラミングキャンプのポスターを見つけて、友達と参加した。学校とプログラミングスクールの協力企画で、同じ学

校の生徒が数十人いた。宿泊して、初のプログラミングを体験した。1文字入力が違うだけでエラーが出る。1文字変えただけで画面上で動き始める。「感動と達成感がありました」

「もっと続けたい」「自分専用のマックのパソコンとiPhoneが欲しい」。両親に頼む

と、驚かれた。欲しい物をねだることはなかったからだ。父から、理由をプレゼンテーションするように言われ、考えた。何をしたか。使い方は制限すること。購入費の半分は自分のお

年玉から払うこと……。

高1のときに女子中高生向けの「ToDoアプリ」を作り、

「アプリ甲子園」に出場した。

だが決勝戦で敗退。高2では撮影した写真が砂時計の中にたまり、モザイクアートになる思い

出フォトアプリ「Photo Glass」で再び決勝戦に残った

が、入賞は逃した。「負ける悔

しさ、また挑戦する強さもプログラミングで学びました」

大学生になっても、仲間とアプリを製作し、海外のコンテストに応募している。一緒に学んだ仲間には、東大初の推薦入試で進学した子もいる。「必修化で

みんなが小学生から始めたら、もっと違う世界が見えるんじゃないかな」。自身のアイデアの源はアナログの実体験。プログラミングでその花をどう咲かせ

るかは、これからだ。(宮坂麻子)

◇

「プログラミングで!」は終わり、次回は9日から始めます。



嶋本夏海さん。現在は「Life is Tech!」の講師になる研修中だ
=東京都世田谷区